

大阪の旗

II-7.25

「南大阪の旗」編集委員会 編集部
連絡先 大阪市西成区東出町四四番地
野鳥の会 気付 定価三〇円

☆抗議声明

野鳥の会

金子賛助会

☆金子崎下木一
5月28日～7月8日

☆糞田のところへんに種子入

☆太衆の参加する自衛組織を作り出し
☆大公の口実より眞美を
☆大衆等議について連載へ
☆金子崎夏まつりの案内

10.2

12.13.16

抗議

日

(1)

六月二八日、金子崎下木一と大西久保村吉
が逮捕され、その後の金子崎の会・里務所も
因戒警察によて不當大搜査され、その後の

回りへの挑戦であり、ひこう書へのアシヨ
明トウカソである。『野鳥の会』は逮捕され
尺金子崎前刀口のほかに收監せしめど忍
耐して、因戒警察と警備隊奮闘力でかいし所
がれわれへの強圧は毫もつたり承りていい。
そもそも革の始りは、ヤフ下手取郎「金木
多金子崎口松坂駅頭の壁を壊してのじ歩
き、該駅頭のショーランニの自守だ」からで
もじだしてくる。これは「野鳥の会」は
一つ無理を断じて許さることはできない。二の
矢の一矢では何いか。

強圧一とは、人々の多く生まる一へへ真
しの因戒警察は攻撃の一矢を最初からげ

市民の立場から
「野鳥の会」は

に目を伏せさせて、て辭が味わひの口辭が殿の方をよく知っている。匂いは娘強くアブリテーション。一月二日後、西成警察署へ届け出で、警備課長室へ力押を

「野鳥へ会」は、年間三百人も中止され
て死んでゆく。金ヶ崎、さゝ木林地区にま
で足りてしめの縄をしていろることはできぬ。
「野鳥へ会」は、「キタ」、「ネズミ」が立ち、
三義、佐々、三井へじかそべり、高田道路
修正ると、そへ工合の火を囲り、マメント
二日大人園地区が一晩のトヤでもし苦い風を
す二本二とを認めない。

「野鳥へ会」は、彈圧による以上の反撃

cz

小けつお前へ逮捕状がでているレヒル、てM
をその場で逮捕し、他の囚人を察さとはし
てが、因威警察から追いやられ、そして、ヒ
リーフまで八十数名の韓国民間指導者、國威
警察、大阪府警六千名逮捕され自由をうなが

「二九一」と記載。左側に「金子・崎田・久松の会」、右側に「野島・会」は、彈圧により以上の反撃をもつて、そぞれ金子・崎田・久松の名前が記してある。左側の「二九一」は、右側の「二九一」の複数形である。

卷之三

月
光
山
川

金士頓救援會
5月28日-7月8日

は、セントラル署の場において鎌木正代部長の首脳會を取の丁寧にRへはが帰して。分明
御大自らの指揮で専用車に乗つて、そつと日、全員頭を下げてあやまりく乘い、そつと
車に専門官と対する暴力を配分ゆうべしと。翌朝、セントラル
二七へへ連証明でのり、思ひが三十六にて併て
として、か、幸い仲間へ見出せより未遂に終
り也。

二の二つの事件が専門者へ結果をいたがお
うじて詮々と、そして參集した所内音頭の名
前、同曰鎌木相人抗議するじつをよいにいた
ある。ヒツ撒きを終之、集会を始めにもの
アエニトニヨシは30秒と競り合ひ、マク
クを中心として集る専門家、すな鎌木正之細
木力が署へ自身を越して抗議する専門家は
然不正に却をくわづかん、火付ハシ

(3)

その以前本丸にて大手門襲撃の後、正丸の城門へ於て、敵的攻撃の点内閣へ向むかひた。正丸即ち上庄の又死が累々掛けてゐる所で、之を十手で離さぬ所である。

正丸が時々之後も相模源の手に敗北し、ほんぐ続いたが、相模一名が連捕連行の間

時々ノタ一は一族の安寧を取次し、並して

どつを除いた部分は相模公の手にとて、

簡単な結婚式の後、ノタ一から引て工ヶ

い子のノタ一、相模達が襲撃用に乗り込んでは、

反乱用車けいへり返され、焼かれたり。

しかし、残るに所内者の方りはまだ無

どつを除いた部分には相模公の手にとて、

簡単な結婚式の後、ノタ一から引て工ヶ

い子のノタ一、相模達が襲撃用に乗り込んでは、

反乱用車けいへり返され、焼かれたり。

連捕者、守内者二名（起訴一名）
泥醉保護二名

金木組一名
久月三十日 前日の反乱を指揮したのは

四十名の新庄屋不治御家だと報道して読

朝、鎌本組が引き足しに問題を有するはそ

れ新庄屋は、二の日へ反乱の指揮者を舌の根も

へす千見過しつらひ、又、金ヶ崎屋を攻め

かれりゆつちれた。人と署く。そして金ヶ崎

の組元帰れど、西成屋にて、自然落生

たの酒御家は諸派合併して百十数人もいる

らしき。新聞記者はこゝに連絡され、本ウ

う形容詞でしか無い。そして週環は云々は蓋

ばかりで、それとも警察は鷹取の一人でもよ

う捕えられず、能十三ばかりか、仰くと、

西成屋は活用して、田でじんに因ぐら、又へ

てろうか。

連捕者 五名（起訴一名）
泥醉保護二名

久月三十日 前日の反乱を指揮したのは

新聞は一齊に書き立てて、アーリン等は

丘、雲、吉、駿、家と、おが音をねば離はひが、

ヒドイ所です、墨村王配師は野放し、守

は有名黒臭。十五一首の状態で鷹取、首が怒る

やを標榜してのぶ赤留をはじめとする過激派

へはアーリン等です。二つづけ込み、カウ

リまで、二つではいつまでてもアーリン

のままで、過激派に利用されただけで良くな

りません。善友は、鷹取が迷惑し、吉、過激

派を取り繕りはじめて

常に車馬頭は金子馬頭へとおりを採用す

りに變えてい

的、抗議行動が起つて、内閣の専門大詮
の全生活に西取置へて指される。二千名の
専門官が反乱は金子馬頭へと變れてくる。直捕者六名（起訴三名）

泥醉保護二名

久月三十日

反乱が二日目へ入ると、足石通生警察権力

はマスク二流幹員で煽動百説を行はれて

尺・四、五十人の新庄屋不治御家がゲリラ

金木組の事は三名無し、正六郎の二名半の事は、前の方の無事も可へべく一々ハ附記せしむ。

老母で差し入れを抱きしめ、ナント差し入れ
は複数の部一括受け付けであり、子を四家屋
へ送り、之に行けといつへど、差し入れは左更
セントと肌着だけはのべてある、差し入れは
レヒヨウから下り藤原宮へ向・久がそ二でモ
大心は座つがナリ武へ一枚も入らばか・久。
叔母セニターと連絡へつゝ西院宮へ就詣、
一二山への要求を受け入れさせ、もう一度回一
始めに時はもう四時を过了にて。そして差
し入れナベノ足利へ入るへすハ皆す莫大所

金正昇相二番・陰一
へ6月10日、野馬へ山へ馬鹿所へ出る。
はといづけは私服で埋りこなす。そして田を
つげられてくる野馬はそれを山四五石へか
ードマントを歩ひきさへ大行く。尾
行ではほい、同行にへどあが、"編野家"は
徹底的マーカーをひか、飛行機は飛行動
きやめにしたが、ア。

6月10日、セイターベルガルス会
ヶ月ノヨシの日6日く國事がハズは
ル

今後遠隔地名を他機直一前
夜、抗議集会、自殺等の抗議事に
代表団が西成瀬義六国会を求めて置
入へども、その一層は令状が
おりてくれば行ひべし。彼等がでて
一とは金へて賣耳へ水であつた。町政は
月24日から未だ未だ未だ未だ未だ未
フモリノ大阪にて甚ほか、たゞござる。

人情本懶の慶應本通のにもう進んでしやく、
何と二泊三日へ微罪シヤドイナしてある。又
さ勝浦食堂へ特の旨をラチしようとして入へで
ある。ひどいの大吉海ギアは何よりも説明で
入り、乗つてき女車に、5月26日焼かれ大正
内閣のロローと同じ泉十ノム一であ、女。
夜、因成會にて抗議集会、令社連席一名
へ7月2日、坂口組暴力干渉事件、大
日本正義田天誅事件。

出しが来て、皆登人のと代裡人弁護士二名
と天ヶ橋警察へおもむいた。しかし山下権四
の迷惑は、さんざん待たせあがくてまた後日
といふことである。

救
世
主
一
切
事
物

大阪市西成区栗田町一四四
野瀬洋行(金物店)
(大正)二二二二二

獄中のヒューチャンに捧げる

卷之二十一

「いやほい、つかまつておきがする。かく、最後の一言、陣仗もおこなわ、萬事に興
うたでうけん、出来事はせきとおこなふ。「そり」といふと、アーヴィングの言ふ如
て言ふがいいかもしない。」

大眾の参加する自衛組織をつくらせ!!

久保田善一

公の口実より眞実を

「ハハハ、魔術師だ。」
「私のセリフがズッキーニー魔術師ではないか。彼は魔術師で、魔術師の魔術師だ。」
「ハハハ、魔術師だ。」
「命がけですよ、アーヴィング。だから魔術師だよ。」
「ハハハ、魔術師だ。」

（12）

二種の光景が並んでゐる。壁は白い、床は黒い。壁には、左側に「中華人民共和国國歌」の歌詞と音譜、右側に「中華人民共和国憲法」の序文と第一章が書かれている。床には、左側に「中華人民共和国國歌」の歌詞と音譜、右側に「中華人民共和国憲法」の序文と第一章が書かれている。

越冬の準備として私がおしゃべり話を聞き、田代にはいかでかと私は抗議したり。
来ぬでか”“田をやるやうのから”“この課田園が、そして往来とはのもしておこ
顯を廻せいかねていまへてはい。農業者といふ人々、不動の田園地主、田代、乃は大抵
の立場から入る事で、金ヶ崎町の農地の多くは、りと最大の所有者を、乃は、こちあたると思
ておれ、こ満足していい。

出来事だ、かげどしてどうも、三分の

山林集

戴連光洋行

(13)

鐵門柱へ圓光鑄鋼大柱は、大阪市庄屋東洋社にて出荷する。我々の娘子町の場所は、切断柱頭の柱頭、スカラーラー柱頭鉄柱は、鐵氣が入るが、來たばかりの鐵船を番號で結束する
へ入れて置かし、柱頭へ當り、柱頭を轉光の柱頭とし、大井クレーンでつり上げて出庫する
へ流して、圓柱、型枠からはずして再度繋げて、小鉄筋のワイヤーをすりした柱頭柱
へ圧縮すべくさせ、鉄筋として柱頭柱を充てする仕事である。

がへり上る。ハラヒコヒツヅル、ハリ

あらぬければほんまいのく袖
一歳もまぬきアラシよか、ス。

卷之三

。凡將軍主事，皆以爲難。及至大司馬，人皆謂之曰：「此將軍無所不善。」

玉樹五郎

調理効力著の解毒を目的の新開

卷之三

野の風情、山の風情

卷之三

◆ 暴力手配即刻薦へばかにへの、警報
権力の彈圧は、不当、粗暴がちであります。大
内に於ける種々の發行をきつめたりを感
じます。

三月廿五日

金石錄

大會、與田公也

卷之三

運営組織へ向、既にいじつ開拓を及ぼせば、
この事だ。

二十一

△ 大陸人民の反對は、日本政府の主張に對する反對である。